

報告

周作クラブ会報

(第102号)
2026年2月28日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

新年会報告	1〜2面
原稿発掘	3面
秋のセミナー報告	4面
「原点の旅のお知らせ」	5面
遠藤周作文学館便り	6面
周作クラブ長崎便り	7面
お知らせ欄	8面

2026新年会開催

2026年1月31日、周作クラブ新年会が聖心女子大学内の聖心グロリアルプラザ「ラ・メンサ・ジャスミン」で開催された。昨年引き続き、パーティ形式での会である。気持ちの良い快晴のなか、昨年よりさらに多い60余人の参加者が全国より集った。おいしい料理に懐かしい笑顔。どのテーブルにも楽しい話の花が咲き、賑やかな会となった。

田中角栄似のダミ声でいたずら電話を12時15分、定刻ぴったりに新年会が始まった。

まず始めに会長代行の加藤宗哉さんの開会の言葉に続き、遠藤龍之介さんから挨拶があった。



(左から) 遠藤龍之介さん、神戸さえさん、池坊保子さん

「私が40歳の時に父が他界し、30年経ちました。父は作家ですから、家で仕事をしています。子どもの頃、学校から帰って『お父さん、遊んで』と言うと、囲碁や将棋と一緒にやってくれました。翌日また声をかけると『うるさい!』と怒鳴られる。おかげで人の心を探るような子どもになってしまいました。ただ、それは大人になってから役に立ちましたが」と思い出を披露した。

続いて、遠藤周作の大親友である池坊保子さんが乾杯の挨拶。

「私は遠藤さんの親友というより、だます相手として存在していました。あるとき、田中角栄に会ったとお話したところ、数日後に角栄を名乗るダミ声の男から電話があったんです。『日本の未来について語ってください』『夫婦生活はどうですか?』……ていねいに答えていた

(次頁に続く)



遠藤周作の伝記漫画が刊行予定
 歓談の後、加藤さんより青森県の太田淳さんと永野新弥さんが紹介された。
 太田さんは、弘前大学の元学長吉田豊さんの思い出



太田淳さん



永野新弥さん

のですが、その辺でアヤシイと思い始め、聞いたしたら遠藤先生のいたずらだったんです」と愉快なエピソードで会場を沸かせた。
 続いて司会の亀岡園子さんが、昨年の周作忌に参加した俳優の秋吉久美子さんからの「遠藤先生の文学がこのように受け継がれていることをうれしく思います」というメッセージを読み上げた。



乾杯する池坊保子さん



遠藤龍之介さん

永野さんからは、ビッグニュースが伝えられた。三田文学新人賞の受賞歴がある永野さんは、現在、聖書を出版している日本聖書協会に勤務。近く刊行予定の遠藤周作の伝記漫画のシナリオを執筆中という。「没後31年の2027年の刊行を目指しています。ぜひ手に取ってください」とアピールした。



和気あいあいな会員の皆さん



最後に幹事の「一田佳希さんが「5月の原点の旅、9月の周作忌でまたお会いしましょう」と呼び掛けて閉会し、会員たちは名残惜しそうに語り合いながら家路についた。
 (写真・文/高木香織)

毎年恒例の豪華賞品が当たる福引には、長崎の遠藤周作文学館、河出書房新社、新潮社、周作クラブ役員からご協力をお願いいただき、もれなく全員分の景品が用意されている。ご協力くださった文学館や出版社、会員のみなさまに厚くお礼申し上げます。

「原点の旅」は、東京のバス旅行
 続いて幹事の今井真理さんと清水優子さんより、5月に行われる「原点の旅」のお知らせがあった。今回は遠藤周作ゆかりの地、町田から聖イグナチオ協会までを巡るバス旅行を予定している(詳細は5ページ参照)。
 次に、みなさんお待ちかねの福引が行われた。

「原点の旅」は、東京のバス旅行
 続いて幹事の今井真理さんと清水優子さんより、5



●福引に当選した皆さん

3等



青木 浩乃さん

遠藤周作文学館100周年記念事業アーカイブDVD「遠藤周作の人物像・遠藤周作の生涯」(非売品)・原稿コピー

2等



井本 敏恵さん

遠藤周作全日記・原稿コピー

1等



大宮 京子さん

映画「沈黙」初回限定ブルーレイ・原稿コピー



遠藤周作作品ほか豪華景品の数々